

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0846鳥取市扇町21番地  
東教発 H25.1.7 No.117  
http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/

## 笑顔 熱意 努力 子どもたちの心の灯をつける

局長 久岡 賀代子



明けましておめでとうございます。

穏やかな新年をお迎えになられました皆様に、謹んでお祝いを申し上げますとともに、本年も皆様にとってよき一年となりますようお祈りいたします。

東部教育局は、子どもたちの健やかな成長を願い、直面する教育課題に対して教育委員会としてできることは何かを常に念頭に置き、気持ちを新たにに取り組む所存でございます。本年もどうぞ、よろしく願いいたします。

昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授は、授賞式の翌日「また今日が新たな始まりです。」と言われ、その時の気持ちを『初心』という言葉で表現しておられました。山中教授のように、前向きな姿勢を崩さず、粘り強く創意工夫し、新たなものに挑戦する気持ちを持ち続けたいものです。

子どもたちは皆、「幸せになりたい。いろいろなことができるようになりたい。」と思っています。しかし、教育現場では様々な課題が山積しています。その課題を解決する鍵は、子どもと共に日々教育活動されている教職員の皆さんの元気な笑顔と教育に対する熱意とたゆまぬ努力です。また、教職員の組織としての価値観を共有し取組のベクトルをそろえていくことです。

心のありようで人の生き方は変わります。年があらたまり、今、「こうしよう。」と決めたところを『初心』と考え、子どもたちの心の灯をつけることができる教育をめざしていただきたいと考えます。学校の教育ビジョンのもと、未来を託す子どもたちに対して、共に手を携え、学校組織が一体となった取組に邁進されることを心から願い、年始の挨拶といたします。

鳥取市立久松小学校



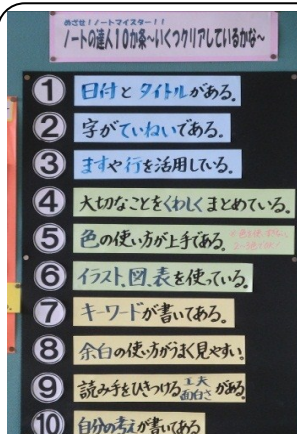
## 考えることと書くことの一体化を図る ～ノートづくりを重点の一つにした授業改善の実践～

### 【授業改善への取組の重点】

＜算数・理科を中心として＞

- ①習得・活用を明確に位置づけた指導過程
- ②思考力・表現力につながる言語活動
- ③ノートづくりの充実

久松小学校は『思考力・表現力を高め、学びを創り出す子どもの育成』を研究主題として、子ども同士の活動や思考がつながる主体的な学び合いをめざして授業改善に取り組んでいます。



ポイントの提示 (第6学年の例)

### 気付きを残し思考を深めるノート例 (理科ノートの基本型)

6月13日(水) **課題**

課題 葉まで届いた水は、その後どうなるのだろうか。

予想 理由 葉まで届いた水のいき場がなくなるから(根から新しい水がき)

**実験方法** 装置 植物にふくませ、水が出るか確かめる。

実験 ①いろいろな植物にふくろをかかせて内側を観察

②葉をと、たもとと取らないものを比べる。(向かともくろをかきせる)

③葉をと、たもとと取らないものを比べる。(向かともくろをかきせる)

まとめ 葉まで届いた水は蒸発する。植物の葉から水が水蒸気となり出ていくことを蒸発といふ。葉の表面にある気孔というすきまから出ていく。

**考察** ①花 葉より 水が蒸発し、水蒸気がたまり、雲(霧)になる。

**実験結果** 結果のあとさい 葉まで届いた水は蒸発する。植物の葉から水が水蒸気となり出ていくことを蒸発といふ。葉の表面にある気孔というすきまから出ていく。

### 【ポイント】

- ・考えるスペースを作っておく
- ・気付きや心のつばやき、友達の考えなどを、吹き出し等を活用して書き込む
- ・友達の考えと自分の考えをつなぎ、思考を積み重ねていく

### 授業づくりにおけるポイント

- ・『考える・書く時間』を確保する
- ・伸ばしたい力を明確にするとともに、『習得』と『活用』をスパイラルに位置づける

### ノートづくりを重視した授業研究

- ・国語科、社会科、算数科、理科の主任によるノートづくりモデルの提案をもとに、職員で検討し、各学年でさらに創意工夫する。公開授業の1か月前に報告する『実践計画』に、『思考力・表現力を高めるノートづくりのポイント』として明示する。

『学び』は知識を習得するだけでなく、それを活かして思考し、自分なりの考えを導き出すことが大切です。ノートの書き方を工夫することで思考を深めさせることができ、「わかった」と子ども自身が実感し、さらなる学びの意欲へとつながります。

# 「全校種参加の意見交換会実施」

～東部地区の教育を語る会～

昨年12月に各地域の代表園長先生・校長先生方と東部教育局の職員とで『児童生徒の社会的自立に向けての課題と対応』というテーマで意見交換会を行いました。就学前教育に始まり義務教育、高校教育そして特別支援教育の視点で、共通する部分が多いことや、接続に際して連携の重要性を再認識した会になりました。



## ★各校種で出された意見★

### 【幼稚園】

- ・自制すること、善悪の判断、言葉の獲得等が家庭で学べていない。親育てが重要である。
- ・愛着関係が重要な時期に子育てに喜びが持てない親が増えている。小中学校と連携を取りながら対応を行っている。

### 【小学校】

- ・社会的自立の基礎は「学力」と「人間性」である。学校という社会の中で自分が考え判断する力を持てるように全職員で関わっている。
- ・発達段階に応じた教育の重要性を、いかに保護者に理解できるように伝えるかを工夫する。

### 【中学校】

- ・子どもの社会的自立のためには、安心して心を開く相手や時間が必要である。可能な限り縦の連携や家庭地域の協力も要請しながら行う。
- ・局には行政として、家庭教育に力を入れられるような大きなうねりを起こしてほしい。

### 【県立高等学校、特別支援学校】

- ・社会に出て通用する力をつけたい。教師が教え込む授業スタイルを生徒が自ら学ぶ本質的な学びに移行していきたい。「生徒の賢さをどう捉えるか」も大事な視点である。
- ・関係機関との連携が必要である。校内の役割分担と連携が重要で、コミュニケーションと言葉の大切さを感じる。

## 石巻市での震災支援活動

### 「東北のことを忘れない」

教育相談員 今西聡子

鳥取県震災支援派遣の一員として、昨年度から宮城県石巻市の門脇小学校を定期的に訪問しています。門脇小学校は地震と津波の被害に加えて校舎が火災に遭い、現在も校区の門脇中学校に間借りしている小学校です。先生方や子どもたち、保護者との出会いの中で感じたことをお伝えします。

### 支援のリレーで生まれた信頼関係

どんなことでも学校での支援はひとりではできません。特に緊急支援ではチームで継続対応することが必須です。3人の教育相談員チームも、たすきをリレーしながら一つのチームとなり、門脇小学校とつながりを継続しています。「ありがとう、聴いてくれて。また来てね。」「ありがとう、聴かせてくれて。また来るね。」と、子どもたちと相談員との間に信頼関係が生まれました。地域の方々からも「忘れないでいてくれて嬉しい。」と何度もお聴きしました。地域や子どもにとって自分の気持ちを受け止めてくれる存在があり続けることが大切なのだと感じています。

### 相談できる力が育つ

安心・安全が保障されると、子どもたちは少しずつ気持ちを語ってくれます。「お腹や頭が痛くなったり、怖くなったり不安になったりするのは当たり前のこと。ひとりで我慢しないで気持ちを話していいんだよ。」と繰り返し伝えてきました。誰でもいつでもどんなことでも相談できる雰囲気次第に学校全体に広がっていきました。相談し合えることは、何か困ったことがあった時、友だち同士で支え合うことにもつながる大切な力です。

これからも、東北の地域や子どもたちから手渡された温かい気持ちを忘れないで、相談活動を行いたいと思います。



## 広島県との人事交流

### 「新しい出会い」

鳥取市立醇風小学校教諭 上本真理

生まれ育った広島県江田島市を離れ、鳥取市立醇風小学校に赴任してから9か月が経ちました。初めのうちは、不安や戸惑いもありましたが、校長先生はじめ先生方がとても親切にしてくださり、徐々に慣れることができました。

醇風小学校には、「醇風五心」「醇風しぐさ」というものがあり、子どもたちの豊かな心を自然に育むベースとして根付いています。毎日、朝の会で「醇風五心」を唱えるときにはわたしも自然と背筋が伸びます。子どもたちは、家庭や地域に見守られてとても穏やかに成長していて、単身赴任のわたしは、そのやさしさに癒やされながら充実した毎日を過ごしています。また、熱心な先生方と協働する楽しさも味わっています。

県が違っても、目の前にいる子どもたちの生きる力を育むための教育をすることに変わりはありません。わたしは担任として、子どもたちの思考力・表現力を育成するために、しっかり教え、じっくり考えさせ、はっきり表現させる授業づくりをするとともに、言語活動の充実を通じた授業改善にこれからも取り組んでいきたいと思っています。



2年間という限られた期間ですが、鳥取県の教育のよさにふれ、しっかりと学んで広島に持ち帰りたいと思っています。

# 育ちと学びをつなぐために

～幼保・小の連携～

幼児教育と小学校教育では、発達特性から教育内容や指導方法が異なっています。そのため、幼児・児童の実態や指導方法等について理解を深め、一貫性のある教育をめざして、連携を図っていくことが求められています。

幼児教育・保育と小学校教育には、「尊重すべき違い」があります。

## ＜幼児期の教育＞

- ・環境を通しての教育
- ・興味や関心に沿った教育
- ・先生や友達と言葉でやりとりをする中で考える
- ・直接的・具体的体験の中で学ぶ
- ・一人一人のよさをとらえる個人内評価

## ＜小学校教育＞

- ・教科等の学習
- ・時間割に沿った生活
- ・言葉でのやりとりや書き言葉で考える
- ・教科書を通して学ぶ
- ・絶対評価・目標に準拠した観点別評価

生活の段差  
学びの段差  
指導の段差

参考：H24幼保小連携教育推進研究会 講演 神長美津子氏から

## スタートカリキュラムの必要性

### ◆小1プロブレムを解消する

遊びや生活を中心とする幼児教育から教科等の学習を中心とする小学校教育への移行は、子どもにとって戸惑いや「段差(尊重すべき違い)」があります

### ◆発達と学びの連続性を図る

スタートカリキュラムとは 保育所(園)などから小学校に入学した子どもたちがスムーズに小学校生活へ適応していけるように編成した **一年生入学当初のカリキュラム** のことです

### ＜(幼児期)学びの芽生え

＜三つの自立＞

- ・学びの自立
- ・生活上の自立
- ・精神的な自立

★幼児期に培った力は児童期につながります

### ＜(児童期)自覚的な学び

＜学力の三つの要素＞

- ・基礎的な知識・技能
- ・課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等
- ・主体的に学習に取り組む態度

なめらかな接続

### ポイント

それぞれの教育・保育現場で、連携の意味や価値を十分認識し、子どもたちの育ちを「見取る力」や「指導力」を高めることが必要です。日常の教育・保育活動や教育課程（スタートカリキュラム）などに反映していくことが、子どもの『発達と学びの連続性』につながります。そのためには、子ども・教職員同士が交流するなど連携することを通して、尊重すべき違いを共通理解することが大切です。

### 作成するもの

身に付けさせたい力・習慣 【資料1】 1

指導内容・指導方法  
指導時期の整理

【資料2】 2, 3, 4

生活科を核にした  
合科的・関連的な  
学習の構想 5

### スタートカリキュラム

(月・週プラン) 【資料3】 6, 7, 8

### スタートカリキュラム作成に必要な準備・工夫

- 1 子どもが感じる違いを知る (幼稚園・保育所(園)と小学校)
- 2 幼稚園・保育所(園)での学び方や保育者の指導の仕方を参考にする
- 3 指導方法として、生活に即した学びの構成を考える
- 4 学習環境の工夫を考える
- 5 合科的・関連的な指導の充実を図る (生活科を核にした単元構成を行う) (教科における生活科との関連性を図る)
- 6 職員全体の理解を図る
- 7 近隣の幼稚園・保育所と連携する
- 8 カリキュラムについて保護者の理解を得る

### ポイント

スタートカリキュラムを作成するにあたって、子どもたちが学校生活に対して **安心感** をもつことができるようにすることが何より大切です。新しい集団の中で人間関係を築いていけるような、また、新しいルールを受け入れ自己発揮することができるようなカリキュラムを作成してほしいものです。

明日も学校が  
楽しみ!



【幼小の連携年間計画】

		平成24年度 福部幼稚園・福部小学校連携年間計画											
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
幼稚園	保育内容	<p>友達との遊びや生活を楽しむようになる → 戸外で体を十分動かして遊ぶ楽しさを味わう → 友達と考えを出し合いながら遊びを進める → お互いを認め合い、協力して遊びや生活を進めていくようになる</p> <p>年長になり張り切って生活をする → 当番活動をする(給食・挨拶当番等) → 時計を意識しながら生活をする → 進んで当番活動や片付けをする → 給食終了時間を意識して食べる</p> <p>自分のことは自分です(身の周りの準備・片付け) → 時計を意識しながら生活をする → 見通しを持って生活をする</p>											
	遊び	<p>好きな遊びを十分楽しむ → 友達といろいろな水遊びを楽しむ → いろいろな運動遊びを楽しむ → 友達と共通の目的を持って取り組み達成感を味わう → 身近な自然に興味や関心を持つ</p> <p>年下の友達と散歩やマラソンをする → 年下の友達と同じ目的に向かって遊ぶ → 身近な自然に興味や関心を持つ</p>											
幼小連携	子ども	<p>「園外保育」[小学校の裏山探検]</p> <p>「第1回幼小交流会」 「運動会に参加しよう」町民運動会「福部青頭」小学校練習参加が学生の動かし方と一緒に遊ぼうという学校の考えと仲良くする。</p> <p>「第2回幼小交流会」 「小学校練習グループに入る等小学校施設を利用し、小学校への興味や関心をもつ。1年生と一緒にグループに入って活動をする。</p> <p>「第3回幼小交流会」 「春の遠足」小学校練習参加が学生の動かし方と一緒に遊ぼうという学校の考えと仲良くする。</p> <p>「第4回幼小交流会」 「秋で遊ぼう」小学校で1年生と秋の遊びを楽しむ。</p> <p>「第5回幼小交流会」 「春遊びをしよう」小学校の校庭で1年生と遊びを楽しむ。</p> <p>「第6回幼小交流会」 「1日体験入学」授業参加(1年)・学校案内(4年)を通して小学校入学の期待や夢を語る。</p>											
	職員	<p>「園外保育」[小学校の裏山探検]</p> <p>「読み聞かせ」(図書持ち回り)</p> <p>「入学式」 参観日</p> <p>「入学式」 参観日</p> <p>「自由参観日」 「入学式」 参観日</p>											
小学校	生活科	<p>ともだちたくさんつくる</p> <p>わたしのつうがう</p> <p>わたしたちの学校どんなところ</p> <p>おもしろいあそびがいっぱい</p> <p>なつはたのしいことがいっぱい</p>											

一貫性のある教育を行うため、「尊重すべき違い」を理解する方法として、子ども・教職員同士の交流があります。特に、多園から1小学校へに入学してくる場合は、教職員の保育体験・授業参観後の話し合いをもつことが有効です。年間計画をたて、見通しをもって連携していきましょう。

資料例 鳥取市立福部幼稚園・福部小学校

【資料1 身に付けさせたい力・習慣】

○実施時期：入学後から連休明けまでの約1か月間程度

○新教育環境適応過程

《物理的環境への適応》 教室・昇降口等身近な施設 職員室・保健室・体育館 上級生の教室・特別教室	《对人的環境への適応》 学級の友達・学級担任 学年の友達・学年担任 上級生・学校の先生	《社会文化的環境への適応》 外的枠組(時間割等) 遊び中心から学習への移行 学習中心の時間割への適応
-----------------------------------------------------------	------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------

○指導内容と定着させるまでの時期

身に付けさせたい力や習慣	1週目	2週目	3週目	4週目
1 45分間座っていることができる。	●	●	●	●
2 話を聞くことができる。	●	●	●	●
3 あいさつができる。	●	●	●	●
4 トイレを使うことができる。	●	●	●	●
5 出席順、背の順で並ぶことができる。	●	●	●	●
6 給食の準備と片付けをすることができる。	●	●	●	●
7 学習の準備をすることができる。	●	●	●	●
8 友達と仲良くできる。	●	●	●	●
9 遊具を使って安全に遊ぶことができる。	●	●	●	●

資料例 八頭町立郡家東小学校

【資料2 指導内容・指導方法・指導時期の整理】

月	4月		
	1週	2週	3週
テーマ	みんななかよし		
物理的環境	・校舎が広 ・校庭が ・校庭が ・校庭が	・校舎が ・校庭が ・校庭が ・校庭が	・校舎が ・校庭が ・校庭が ・校庭が
对人的環境	・学年担任 ・学年担任 ・学年担任	・学年担任 ・学年担任 ・学年担任	・学年担任 ・学年担任 ・学年担任

スタートカリキュラムを作成する前提として、幼保・小の間で情報交換をすることを通して、入学当初に何をねらい、それをいつ・どのように身に付けさせるのかを明らかにすることが大切です。

【資料3 スタートカリキュラム(月・週プラン)】

週	第1週	第2週
目標	1年生になったことに喜びを感じ、学校での生活の仕方を知る	小学校への期待をもち、学校での生活や担任の先生に慣れる。
活動内容	<p>朝) あいさつ(ペアで握手) → (ペアでハイタッチ)</p> <p>朝) 握手でさようなら(担任・ペア)</p> <p>朝) 帰国語) 読み聞かせ・手遊び・粘土(体) 体を動かす(音) 歌う</p> <p>学) 学校生活のきまりを知る</p> <p>持ち物の片付け方・給食</p> <p>提出や持ち帰りの仕方・姿勢</p> <p>登下校の仕方・返事の仕方</p> <p>手洗いうがい・トイレの使い方</p> <p>行) 発育測定 衣服のたたみ方</p>	<p>SGE → (学習内容も意識して)</p> <p>学・国) 学習の約束を知る</p> <p>話し方聞き方・姿勢・鉛筆の持ち方</p> <p>学) 学校生活のきまりを知る</p> <p>一日の過ごし方</p> <p>生・国・体・音・学) 学校探検(校舎内外を学級全員で)</p> <p>生・国・国) 自己紹介をする</p>
支援	③弾力的な時間運用を行う 一人ひとりにかかわれるように テンポよく活動が行えるように	①気になる児童とは、朝や休憩時間などに一緒に遊ぶ。

友達とふれあう活動で一日をスタート

弾力的な時間の運用

つながりのある内容の配列

配慮することや支援を記入

スタートカリキュラムは、教科の枠にとらわれずに、子どもの目線で必然性のある活動を組み合わせることが大切です。そのために、生活科を核にした合科的な指導が必要です。

資料例 岩美町立岩美南小学校

## 子どもたちが主体的に学ぶ授業づくり part 3

### 【ポイント】

- ① めざす子どもの姿を明確にし、わくわく感のあるめあてを仕組む。
- ② 言語活動の充実を図った学習活動を展開する。
- ③ **めあてに対する振り返りを位置づける。**

振り返り重視の根拠は？

「子どもたちが主体的に学ぶ授業づくり」に関わる3つのポイントのうち、今回は③を中心に考えてみましょう。授業における振り返りの意義、子どもたちの主体的な学びにつながる振り返りの具体的なイメージなどについてお伝えします。

◆「各教科の指導に当たっては、児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」（学習指導要領総則）

学習指導要領解説総則編においては、「今回特に規定を新たに追加したものである」と説明されています。

### 何のための振り返りか？

#### <創意工夫した学習過程>

- ① 導入 … 学習の見通しを的確に持つ
- ② 展開 … 主たる学習活動を充実させる
- ③ まとめ … **学習活動・内容を振り返る**

- ・ 学習意欲の向上
- ・ 学習内容の確実な定着
- ・ 思考力・判断力・表現力等の育成

確かな学力

主体的学び

「見通し・振り返り」学習活動を各教科等の指導の中に計画的に取り入れることが重要！

児童生徒側 … 学習の達成感、学んだ内容の再確認、次時につながる学習意欲と見通し  
教師側 … 本時における自分自身の指導を振り返る、次時以降の指導への反映

### めあてを意識した振り返りを！

#### 例えば

【中学校2年：国語科】『徒然草』から教訓を学ぼう（読むこと）

ねらい：徒然草の章段に表れている兼好法師のものの見方や考え方に触れ、自分の知識や経験と関連付けながら、自分の考えを持つことができる。

#### 本時のめあて

自分の選んだ話の内容から、兼好法師の伝えたかったことを考えよう。

#### POINT

- ・ 学びの達成感や変容・成長の自覚、さらなる課題意識などを子ども自身が持てるよう工夫する！
- ・ **単に頑張ったことや感想を書けばいいのではない！**

#### 単元構想

- 第1次 単元全体の見通しをもつ。
- 第2次 教科書教材「仁和寺にある法師」の話を読み、法師の失敗理由と作者の教え（教訓）を考える。
- 第3次（本時） 「仁和寺にある法師」での学習を活かし、教科書にない他の章段を選んで、そこに書かれた教訓を自分の力でまとめる。

#### 本時の振り返り

兼好法師のものの見方や考え方について、自分の経験などと関連付けて、あなたの考えを200字程度でまとめましょう。

#### 【子どもの振り返り例】

私は、「あやまちは、安き所になりて、必ず仕ることにさうらふ」という教えにとても納得した。私もこの高名の木登りの話のように、最後に安心してしまい……。

#### <その他のPOINT>

- ◆ 振り返りの目的を子どもたちに伝えること
- ◆ 振り返る視点を子どもたちに示して意識させること
- ◆ 書かせることだけにこだわらないこと
- ◆ 学習の過程における評価言なども大切にしておくこと

「時間がなくなってしまい十分な振り返りができなかった」という経験はありませんか。子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりにおいて、振り返りは重要な学習活動です。めあてを踏まえた振り返りを位置づけることとあわせて、その時間をしっかり保障することにもこだわりたいものです。